

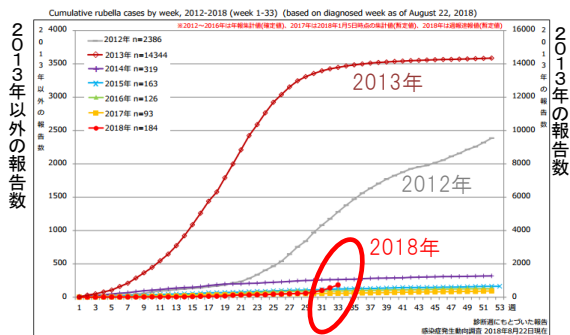
新・こどもと健康

No.20

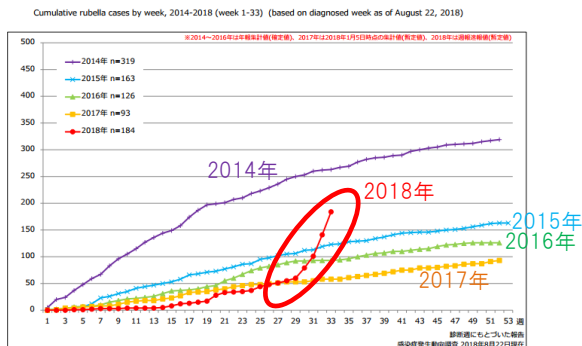
2018.9.1

関東で風疹が流行しています

国立感染症研究所は8月28日、2018年の第33週である8月13～19日までの風疹患者累積報告数が184人になったと発表しました。地域別では、千葉県62人、東京都47人が多く、埼玉県と神奈川県を合わせた首都圏4都県が全体の7割を占めています。2012年から2013年にかけて大規模な流行となり、この2年間で16,000人を超える全国流行になったのに比べるとまだまだですが、今後拡大するかもしれません。



2012年から2018年シーズンまでの風しん患者累積報告数



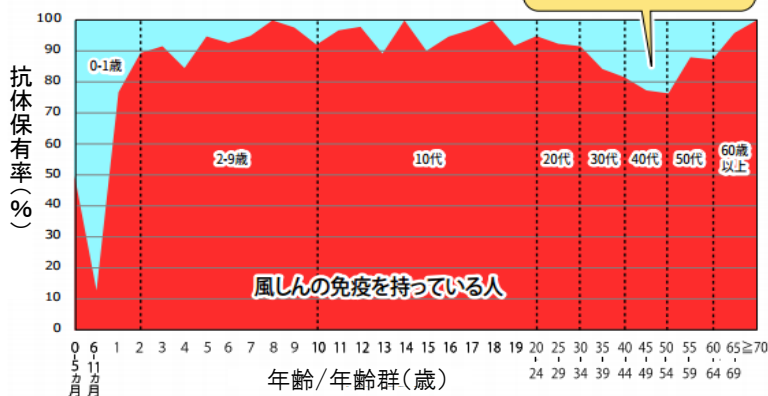
左から2012と2013年シーズンを除いた風しん患者累積報告数

184人のうち9割が30～50代男性

平成2年4月2日以降に生まれた人は2回ワクチンを受ける機会がありましたが、それより年齢が上の人は受けていても1回、そして昭和54年4月1日以前に生まれた男性は1回もその機会がなかったのです。平成25年度の国の調査では、20代の男性の約6.1%が、30代の男性の約15.8%が、40代の男性の約16.3%が風疹への抗体を持っていませんでした。

生年月日など	ワクチン接種の状況
昭和37年4月1日以前生まれの男女	定期接種は行われていませんでしたが、大半の人が自然に風疹に感染することで免疫があります。
昭和37年4月2日～ 昭和54年4月1日以前生まれの男性	中学生の時に女性のみを対象として、学校で集団接種が行われていたため、自然に風疹に感染する機会が減少しましたが、男性は定期接種制度が行われていないので、風疹の免疫がない人が多い世代です。
昭和54年4月2日～ 昭和62年10月1日生まれの男女	男女とも中学生の時に予防接種を受ける対象になっていましたが、中学生のときに個別に医療機関で予防接種を受ける制度であったため、接種率が低く、風疹の免疫がない人が多い世代です。
昭和62年10月2日～ 平成2年4月1日生まれの男女	男女とも幼児のときに予防接種を受ける対象となり、接種率は比較的高いのですが、自然に風疹に感染する機会がさらに減少したため、接種を受けていない人には風疹の免疫がない人が比較的多い世代です。

男性の年齢別風疹抗体保有状況



■ 風疹の免疫を持っている人 (HI法で8倍以上)
■ 風疹の免疫を持っていない人 (HI法で8倍未満)

風疹の特徴

三日(みっか)ばしかとも言われます。風疹ウイルスによって起こる急性の発疹性感染症で、潜伏期間は2～3週間(平均16～18日)です。主な症状として発熱、発疹、リンパ節(特に耳たぶの後ろや後頭部、頸部のリンパ節)腫脹が出現します。発熱は風疹患者の半数程度ですが、逆に39℃以上の高熱が1週間以上持続する場合があります。また感染していても症状までははっきりしない感染(不顕性(ふけんせい)感染)が15(～30)%程度あります。リンパ節は発疹の出る数日前から腫れはじめ、3～6週間持続します。多くの場合、発疹は顔面から出現し、その後数日で体幹、四肢に広がり、その後消失します。発疹は融合傾向を伴わない(=発疹同士がくっつかない)淡紅色であることが一般的ですが、成人では、融合傾向のある麻疹様の鮮紅色紅斑である場合も多く、症状は多彩です。麻疹よりは軽いですが、カタル症状(咳嗽や鼻汁、眼球結膜充血など)を伴うことも多いです。発熱・発疹・リンパ節腫脹の3徴候のいずれかを欠くものについての臨床診断は困難となります。まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症が発生することがあります。成人では発熱や発疹の期間が子供に比べて長く、手指のこわばりや痛みを訴えることも多く、関節炎を伴う場合もあります。

感染経路は飛沫感染です。発疹の出現7日前から、発疹出現後7日くらいまで感染力があると考えられています。不顕性感染であってもウイルスの排泄がみられており、感染源になりえるので厄介です。学校保健安全法では『発疹が消失するまで』出席停止となります。

先天性風疹症候群の原因になります

妊婦、妊娠20週頃まで(特に妊娠初期)の女性が風疹にかかると胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、白内障や緑内障などの眼症状、動脈管開存症や肺動脈狭窄症などの先天性心疾患、胎内発育不全、精神発達遅延などを発症させますが、難聴の頻度が最も多いです。妊娠1か月以内なら約50%以上に、妊娠2か月以内なら20～30%に、妊娠3か月以内なら約5%に認めるといった報告やもっと悪いという報告もあります。

男性も含めてワクチンが重要です

免疫がない、あるいは弱いなら、妊娠前に積極的にワクチンをしておくことが望まれます。ただし、ワクチンを接種するなら、接種前1か月から接種後2か月間は避妊の必要があります(アメリカ疾病予防管理センターCDCは風疹ワクチンからの先天性風疹症候群発症の理論的リスクは0～1.6%としています)。妊娠中には風疹のワクチンを受けることはできません。また、男性も自分の身を守るだけでなく、周囲にいる配偶者やパートナー、職場の同僚にうつす可能性を低くしたり、流行の防波堤になることができます。

風疹抗体が基準値未満の堺市在住の方には助成制度があります

堺市内の契約医療機関でのワクチンの自己負担額:1,000円、助成回数:1人1回限り

現在掲載の助成期間:平成30年4月1日から平成31年3月31日接種分

対象者:ワクチン接種日時時点で堺市に住民登録があり、接種日以前5年以内の風疹抗体検査結果が基準値に満たない方で、次の1から3のいずれかに該当する方。

1. 妊娠を希望する女性
2. 妊娠を希望する女性の配偶者
3. 妊娠している女性の配偶者

⑨ 助成には、予め風疹の抗体検査を受け、抗体が基準値未満である必要があります。各保健センターで月1回風疹の抗体検査を実施しています(堺市に住民登録がある20歳以上の方、無料、1人1回限り)。また、堺市外などでの接種には還付請求制度があります。

(出典:国立感染症研究所 感染症疫学センターHP『首都圏における風疹急増に関する緊急情報:2018年8月22日現在』、厚生労働省HP『風しんの感染予防の普及・啓発事業』、国立感染症研究所 感染症疫学センターHP『風疹ワクチン啓蒙ポスター2018』、国立感染症研究所HP『風疹Q&A』、IDSC HP『風疹の現状と今後の風疹対策について』、小児疾患診療のための病態生理改訂第5版、小児内科予防接種Q&A改訂第3版、堺市HP『風しん予防接種費用の助成について』『風しん抗体検査のご案内』)

9月・担当医の変更

1日(土) 片桐→赤澤
11日(火) 赤澤→片桐
15日(土) 片桐→赤澤